

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)SJCプロジェクト	階数	地上8F 地下1F
建設地	相模原市三丁目271番5外	構造	SRC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,205 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2020年4月7日
敷地面積	1,528 m <sup>2</sup>	作成者	清水建設(株)一級建築士事務所
建築面積	1,150 m <sup>2</sup>	確認日	2020年4月7日
延床面積	9,267 m <sup>2</sup>	確認者	清水建設(株)一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.4**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 73%

③ 上記+②以外の: 73%

④ 上記+: 73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.4

音環境	3.3
温熱環境	3.1
光・視環境	3.6
空気質環境	3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

機能性	3.1
耐用性	3.7
対応性	3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.4

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性・	3.0

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.5

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	4.9
効率的	3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

水資源	3.4
非再生材料の	4.0
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

地球温暖化	4.0
地域環境	3.6
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 「信頼性、将来性、シンボル性を備えた事務センターの創出」をコンセプトに高い耐震性、セキュリティー、業務継続性の確保を確率し、環境にやさしい快適な執務環境を実現した計画を行っている。		-
<b>Q1 室内環境</b> ・吸音材の採用により音環境に配慮した計画。	<b>Q2 サービス性能</b> ・非常用発電設備等の採用による設備の信頼性へ配慮した計画。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・建物形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和した計画。
<b>LR1 エネルギー</b> ・中央監視設備(BEMS)を採用し、エネルギー量の監視が可能とした計画。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・リサイクル材を採用し、資源の再利用に配慮した計画。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・交通渋滞に配慮した車両出入り口等の計画。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される